慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	序にかえて
Sub Title	
Author	堀江, 湛(Horie, Fukashi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1990
Jtitle	法學研究 : 法律・政治・社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.63, No.2 (1990. 2) ,p.5- 6
Abstract	
Notes	中澤精次郎先生追悼号
Genre	Article
URL	http://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19900228-0005

序にかえて

慶應義塾大学法学部教授中澤精次郎先生には、平成元年三月二十六日早朝、病をもって逝去されました。享年六十四歳、痛恨の窮みであります。

私どもは、先生が慶應病院に入院されたことは承知しておりました。しかし、四月に入って暖かくなり新学期の講義の始まる頃には、また何時ものように三田山上で先生のお元気な姿に接することができると思い込んでおりました。それだけに、今忽然幽明境を異にされ驚きのあまり言葉もありません。先生は長らく慶應義塾大学法学部の重鎮であり、わが国では数少ないソ連政治研究の権威であられました。今先生を失って、法学部はもとより学界の損失の大きさは例えようもありません。

先生は、昭和二十四年三月慶應義塾大学法学部政治学科を卒業されると同時に母校に残り、法学部助手通信教育部インストラクターに就任され、研究者としてソ連政治の研究を手掛けられることとなりました。昭和三十三年四月には専任講師、昭和三十五年九月には助教授に昇進され、昭和四十年四月からは二年間外務省の委嘱を受けてモスクワに在勤され、当時としては珍しい現地での研究と資料の収集につとめられました。さらに先生は、昭和四十八年四月法学部教授に栄進され、法学部にあっては政治学科地域研究部門の中心教授として、また学界にあっては日本政治学会およびソ連東欧学会を舞台として、ソ連政治研究の第一線で活躍されるとともに後進の指導にもあたられました。

先生は、派手なことがお嫌いでいつも控え目で寡黙の人であられました。反面自ら信ずるところは一歩も譲られな

い強い意志の人でもありました。なにかの折、先生のそういった御性格の一端をかいまみるたびに改めて畏敬の念を覚えたものであります。

私ごとで恐縮でありますが、昭和四十一年の夏米国留学の帰途モスクワに立ち寄った私は、大使館の書記官とともに折からモスクワに御滞在中の先生を囲んで、一夕中華料理を共にする機会をえました。いつになく饒舌であられた先生とお話の中で、中ソ対立のため中国人のコックがすべて引き揚げ、その料理はすべてロシヤ人の手になるものだという御説明を伺ったことを、今なお懐かしく思いだします。

先生は、慶應義塾大学御定年の後、新設準備のすすんでいる敬和学園大学人文学部国際文化学科の主任教授として赴任されることが決っておりました。昨年の御病気の折、先生は、自分には大学新設という新しい仕事が待っている、病気に敗けてはおられないとおっしゃって闘病生活を続けられたと御全快の際、令夫人から伺いました。それだけに今こうして先生にお別れの御挨拶を申し上げることになろうとは夢にも思いませんでした。

先生の多年慶應義塾大学法学部の研究教育に残された御業績とソ連政治研究の学燈は、先生を敬慕してやまない後進の同僚や先生の指導を受けて育った弟子たちの手によってきっと受け継がれることと思います。

終りにのぞんで、先生に寄り沿って先生を励ましひたすら看病につとめ、先生とともに闘病生活を闘われた令夫人をはじめ御家族の上に、先生の積善の余慶あらんことを願ってお別れのことばと致します。

本稿は、平成元年三月二十八日、先生の御葬儀の際、弔辞として霊前に捧げたものである。

法学部長　堀江湛